

3月2日(月)

令和八年度 B日程入学試験問題

文学部（日本文学科・中国文学科・史学科）、人間開発学部

古典（古文・漢文）

—注意事項—

- 1 問題は1ページから9ページ、解答用紙は一枚である。
- 2 解答はすべて別紙解答用紙に記入すること。
- 3 試験時間は六〇分である。

省略の箇所は、著作権の都合上省略しています。

1

この問題は

1

5

20

に解答すること。

次の文章は『源氏物語』の一節で、風が強く吹くなか、中将が父大臣とその妻（女君）を見舞うため、南の殿おとしを訪れる場面である。中将と女君との間に血のつながりはない。これを読んで、後の問いに答えなさい。（60点）

省略

省 略

(注) ○もとあらの小萩―「宮城野のもとあらの小萩露を重み風を待つごと君をこそ待て」(『古今和歌集』)による。

○姫君―女君の養女。 ○三条宮―中将の母方の祖母が住む。

問一 傍線部(1)～(5)の敬意の対象の組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 **1** にマークしなさい。

ア	(1) 女君	(2) 中将	(3) 女君	(4) 大臣	(5) 中将
イ	(1) 中将	(2) 中将	(3) 女君	(4) 中将	(5) 大臣
ウ	(1) 女君	(2) 女君	(3) 中将	(4) 大臣	(5) 中将
エ	(1) 中将	(2) 女君	(3) 中将	(4) 中将	(5) 中将
オ	(1) 女君	(2) 中将	(3) 女君	(4) 大臣	(5) 大臣

問二 波線部(A)・(B)の意味として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、(A)は解答欄 **2** に、(B)は **3** にマークしなさい。

(A)				
2	ア	面白	イ	趣き深い
	ウ	ぶっそうだ	エ	きれいだ
	オ	いやだ		
(B)				
3	ア	準備する	イ	うわさをする
	ウ	口やかましくする	エ	大騒ぎをする
	オ	罵倒する		

問三 傍線部 (a) は誰のどのような様子か。最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 にマークしなさい。

ア 姫君のかわいらしい様子

イ 女房たちの気高い様子

ウ 大臣の照り映える様子

エ 中将の華やかな様子

オ 女君の美しい様子

問四 傍線部 (b)・(c)・(d) の内容としてどのようなことを示しているのか。最もふさわしいものを、次の ア～オ の中からそれぞれ一つずつ

選び、(b) は解答欄 に、(c) は に、(d) は にマークしなさい。

(b)

- ア 女房たちを気かけ、そのまま奥にお入りになることも出来ないこと
イ 数々の花を気かけ、そのまま奥にお入りになることも出来ないこと
ウ 数々の花を気かけ、笑うことも出来なくて奥にお入りにならないこと
エ 女房たちを気かけ、笑うことも出来なくて奥にお入りにならないこと
オ 数々の花を気かけ、笑うことも出来なくて奥にお入りになることも出来ないこと

(c)

- ア お側の女房たちもござっぱりして美しいが、女君は数々の花から目を離す気にはなれないこと
イ 女君や女房たちも神々しく美しいが、中将は数々の花から目を離す気にはなれないこと
ウ お側の女房たちも小ぎれいで美しいが、女君は中将から目を離す気にはなれないこと
エ お側の女房たちも小ぎれいで美しいが、中将は女君から目を離す気にはなれないこと
オ 女君も神々しく美しいが、中将は数々の花から目を離す気にはなれないこと

(d)

7

- ア 女君が、中將が女房たちの姿を見たのではないかと、中將の姿を見て怪しんだこと
- イ 大臣が、中將が女君の姿を見たのではないかと、中將の姿を見て怪しんだこと
- ウ 中將が、女房たちの不注意として妻戸の開いているのを咎めたこと
- エ 女君が、女房たちの不注意として妻戸の開いているのを咎めたこと
- オ 大臣が、女房たちが中將のために妻戸を開けているのを咎めたこと

問五

点線部 (X)・(Y)

はなぜ恐ろしく思ったのか。その理由として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、(X)

は解答欄

8

に、(Y)は 9 にマークしなさい。

(X)

8

- ア 中將が女君を垣間見るのではないかと疑う大臣の嫉妬深さに、大臣自身が気づいたから。
- イ 女君が中將を垣間見るのではないかと疑う大臣の嫉妬深さに、中將が気づいたから。
- ウ 中將が姫君を垣間見るのではないかと疑う大臣の用心深さに、中將が気づいたから。
- エ 中將が女君を垣間見るのではないかと疑う大臣の用心深さに、中將が気づいたから。
- オ 女房たちが中將を垣間見るのではないかと疑う大臣の嫉妬深さに、大臣自身が気づいたから。

(Y)

9

- ア 中將の立っている渡殿の格子が風に吹き開けられて中將から女君が見えるようになった、と女君が思ったから。
- イ 大臣の立っている渡殿の格子が風に吹き開けられて中將から見られるようになった、と大臣が思ったから。
- ウ 中將の立っている渡殿の格子が風に吹き開けられて大臣から見られるようになった、と中將が思ったから。
- エ 中將の立っている渡殿は格子が吹き開けられるほどに風が荒々しく危ない、と中將が思ったから。
- オ 大臣の立っている渡殿は格子が吹き開けられるほどに風が荒々しく危ない、と大臣が思ったから。

問六 傍線部 (e) は誰のどのような心か。最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 10 にマークしなさい。

- ア 女君を見たいと思う男たちの心
- イ 強い風を心配する女房たちの心
- ウ 用心の行き届いた大臣と女君の心
- エ 強い風を心配する中将と祖母の心
- オ 用心の行き届いた中将と祖母の心

問七 傍線部 (f)・(g) の内容として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、(f) は解答欄 11 に、(g) は

12 にマークしなさい。

(f)

- ア 大臣は、風の音を幼子のように怖がる姫君を見ていられず、女君のもとにやってきた。
- イ 中将は、風の音を幼子のように怖がる祖母を見ていられず、南の殿にやってきた。
- ウ 大臣は、風の音を幼子のように怖がる女君が心配だから、女君のもとに戻ろうとしている。
- エ 大臣は、風の音を幼子のように怖がる姫君が心配だから、姫君のもとに戻ろうとしている。
- オ 中将は、風の音を幼子のように怖がる祖母が心配だから、三条宮のもとに戻ろうとしている。

11

(g)

- ア 大臣が、中将が側にいるので安心だと思って任せるといふ三条宮への伝言を、中将に託した。
- イ 女君が、大臣が側にいるので安心だと思って任せるといふ三条宮への伝言を、中将に託した。
- ウ 大臣が、中将が側にいるので安心だと思って任せるといふ女君への伝言を、中将に託した。
- エ 女君が、中将が側にいるので安心だと思って任せるといふ女君への伝言を、中将に託した。
- オ 女君が、大臣が側にいるので安心だと思って任せるといふ女君への伝言を、大臣に託した。

12

問八 二重傍線部(一)・(二)・(三)・(四)・(五)の活用形としてふさわしいものを、次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、(一)は解答欄
13 に、(二)は 14 に、(三)は 15 に、(四)は 16 に、(五)は 17 にマークしなさい。

ア 未然形 イ 連用形 ウ 終止形 エ 連体形 オ 已然形 カ 命令形

問九 二重傍線部(六)・(七)・(八)の「に」の文法的説明としてふさわしいものを、次のア～キの中からそれぞれ一つずつ選び、(六)は解答欄

18 に、(七)は 19 に、(八)は 20 にマークしなさい。

ア 格助詞 イ 接続助詞 ウ 完了の助動詞 エ 断定の助動詞 オ 副詞の一部

カ 動詞の一部 キ 形容動詞の一部

2

この問題は、解答欄

21

〜

30

に解答すること。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、問いの都合で返り点・送りがなを省いた部分がある。

省 略

(注) ○王烈―人名。 ○太原―地名。 ○陳寔―人名。 ○主―牛の持ち主。 ○刑戮―刑罰。 ○端―織物の長さの単位。

○推求―探し求める。 ○争訟曲直―争いごとやもめごと。 ○至塗―道の途中で。 ○廬―王烈の住居。

問一 波線部 (W) (Y) の送りがなを含めた読み方として最もふさわしいものを、次の ア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、(W) は解答欄 21 に、(X) は 22 に、(Y) は 23 にマークしなさい。

21	(W) 少	ア	わかくして
イ	すこしくして	ウ	しばらくして
エ	かけて		

22	(X) 遣	ア	おくる
イ	わする	ウ	つくる
エ	かざる		

23	(Y) 遣	ア	おくる
イ	わする	ウ	つくる
エ	かざる		

問二 傍線部 (a)・(b) の意味として最もふさわしいものを、次の ア～エの中からそれぞれ一つ選び、(a) は解答欄 24 に、(b) は 25 にマークしなさい。

24	(a) 称	ア	つりあいをとれる
イ	任用される	ウ	名前を呼ばれる
エ	ほめたたえられる		

25	(b) 甘	ア	手加減する
イ	味わう	ウ	受け入れる
エ	見逃す		

問三 傍線部 (c) のように言った理由として最もふさわしいものを、次の ア～エの中から一つ選び、解答欄 26 にマークしなさい。

- ア 王彦方が知りたくないだろうと考えたから。
- イ 王彦方に知られたくないと思ったから。
- ウ 王彦方に知られるのはしかたないと考えたから。
- エ 王彦方が知っているはずがないと思ったから。

問四 傍線部 (d) の解釈として最もふさわしいものを、次の ア～エの中から一つ選び、解答欄 27 にマークしなさい。

ア 他人が悪事を働くのを見たくないという心。

イ 他人が恥をかくのを気の毒に思う心。

ウ 自分が悪事を働いたことを反省する心。

エ 自分が恥をかいたことを気まずく思う心。

問五 傍線部 (e) の解釈として最もふさわしいものを、次の ア～エの中から一つ選び、解答欄 28 にマークしなさい。

ア 通行人が老父を見かけ、そのあとをつけて見守っていた。

イ 通行人が剣を見つけ、持ち主が戻るまで剣を守っていた。

ウ 通行人が剣に目をつけ、自分のものにする意思を固めた。

エ 通行人が現場を目撃し、近くにいた人々を守った。

問六 空欄 1 に入るのに最もふさわしいものを、次の ア～エの中から一つ選び、解答欄 29 にマークしなさい。

ア 老父

イ 陳寔

ウ 王烈

エ 盗牛者

問七 本文の内容に合致するものを、次の ア～エの中から一つ選び、解答欄 30 にマークしなさい。

ア 王烈は行いの優れた人物であり、郷里では罪を犯した人も彼に感化されて改心した。

イ 王烈は罪を摘発することに励んだため、彼の郷里では罪を犯す人がいなくなった。

ウ 王烈は徳を積んで貧しい人々に恩恵を施したが、郷里では誰からも信頼されなかった。

エ 王烈の行いが人々を感化し、郷里では他人の善行を報告することが奨励されていた。

